

令和4年度文化審議会（第3回）における主な意見

委員	発言要旨	反映箇所
A	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化に取り組む者の数の減少が課題だが、軽く入れるような敷居の低い部分が今後大事。まずは軽く入ってもらい、段々と奥深さを探求してもらおう。異分野とのコラボも新たな分野を切り開く・体験するという意味で重要。 ・「県民1文化活動」のように、キャッチコピーを活用し県民が文化活動に取り組むよう情報発信を行ってはどうか。 	I ①
B	文化を楽しむ土壌の充実、支援の充実が非常に重要。楽しいことの中に意識しない大きな学びがある。まずは体験してもらうことで、子ども、大人を問わず豊かな人生に繋がるのではないか。	I ①
C	ホール等で行われる文化イベントのパブリックビューイングでも見られるようにすれば、周辺の飲食などまちの活性化と文化振興につながるのではないか	I ①
D	・県民アンケート結果をみると、無関心層が多い。 <u>いろいろな催しの機会を設けるとともに、わかりやすく発信していただきたい。</u>	I ① ※今回追加
E	文化部の活動は活発である一方、文化部に入部する生徒が少なくなっている。 <u>文化部の魅力を発信、支援していただきたい。</u>	I ② ※今回追加
F	県立文化ホール職員、特に舞台技術の高さは全国的に評価が高い。高い技術をもつ職員の退職後も技術水準を維持できるよう、研修機会を設けるべき。	I ③
G	・富山県には既に <u>いろいろな文化施設が存在しておりこれらの連携をさらに進めるべき。</u> 例えば県中央植物園は富山の自然への理解を通じて富山の文化についての理解促進・充実に繋がる。	II ① ※今回追加
H	富山県は美術館・博物館の数が多、 <u>横のつながりを強めるべき。</u> 小さな美術館にもそれぞれの特色・魅力があり、県民が知って楽しむことが文化振興に繋がる。	II ① ※今回追加
I	<ul style="list-style-type: none"> ・県内にはたくさんの文化財、町並み、祭りがあるが、全県下年間を通じてどこで何をやっているか、概要を含めて情報を整理・発信していくべき ・文化観光に関しては、地元の郷土料理を含んだモデルコースを作っておくと、情報発信としてよいのではないか。面で広げて富山の魅力を発信していくべき 	II ①
J	・利賀での観劇やトレーニングなどで外国人の受け入れが増加しつつある。 <u>食文化や伝統文化、伝統的な建物、農業も含め、文化を全体的に体験していただけるような面としての広がりにつなげたい。</u>	II ① ※今回追加
K	・県外客や国外客は、地元の人・地域の人が行かないものにはいかない。地元の人を巻き込む具体的な取組みを入れてほしい。	II ①
L	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>スマホを活用した多言語解説など、デジタル化をすすめてほしい。</u> ・県内に文化施設は多いが所在が分かりにくいという話を聞く。<u>駅やバス停などの名称に施設名を入れるなど、わかりやすいよう工夫を考える必要があるのではないか。</u> 	III ② ※今回追加
M	<ul style="list-style-type: none"> ・III②の「入館者増のための施策を推進」については、<u>記載の肉付けが必要</u> ・「リスキリング」や「STEAM教育」など聞きなれない用語について注釈を入れるべき 	III ② 用語注釈 ※今回追加